

日本災害看護学会 令和6年能登半島地震活動報告

2024年2月6日(火)

活動隊員：午前：宮前繁、田中加苗、午後：渡辺康人、藤原真由、加藤鮎美

1. 活動日時

2024年2月6日(火)0時～24時

2. 活動場所

珠洲市立大谷小中学校（石川県珠洲市大谷町1字78番地）

避難所使用者数 35人（一時避難者あり） 20世帯

3. 石川県の被害状況

人的被害 死者：240人 負傷者：1,422人

住家被害 全壊・半壊・一部損壊：10,990棟

（2月5日 14:00 内閣府情報）

4. 天候

曇りのち雨雪 最高気温 5℃ 最低気温 1℃

5. 活動の実際

7:00 起床 ホットタオル配布・健康観察

8:00 朝食（配膳・下膳）

珠洲市保健医療福祉調整本部 zoom meeting

9:00 ラジオ体操（本日から小中学校児童と一緒に実施）、換気

10:00 環境整備（床掃除、オムツ類の整理、ベッド周囲整理）

11:00 保健師巡回チームの来訪対応、地域の情報共有

12:00 昼食（配膳・下膳）

13:00 歯科巡回チーム JDAT 到着、診療環境調整

14:00 リハビリ巡回チーム JRAT 来訪対応、後続隊到着申し送り

15:30 ラジオ体操、換気

16:00 CFS(Child Friendly Space)の拡充、NPO 法人バルビー視察とニーズアセスメント

17:00 珠洲市保健医療福祉調整本部 zoom meeting

18:00 夕食（配膳、下膳）

19:00 大谷小中学校本部関係者 meeting、換気

20:00 健康観察、避難者とコミュニケーション

20:30 アナウンス（明日のPWJ巡回診療、処方切れの確認、JDATのポスター掲示の案内）

21:00 消灯、適宜対応

22:00 記録

6. 支援活動と課題

【断水と避難所の生活環境】

- **手洗い**：WOTA 製の手洗い台が 2 か所玄関の外に設置されている。浄水用のフィルターの数は少なくなったため、県外行政支援者から珠洲市役所に発注依頼し、現在問題は解消している。
- **トイレ**：避難所（体育館）のトイレは 2 か所あり、外の入口付近に仮設トイレが 2 基設置され、室内はライトや空気清浄機が置かれ、鍵もかかる。避難所内の多目的トイレでは下水が可能で、男女別になっており、県外行政職員にて定期的な清掃が実施されている。明日から防火水槽に山水を貯め、8 日に県外行政職員と消防士、物資担当者で漏水チェックを行い、管内のトイレの正常使用の可否を判断する予定となっている。
- **洗濯**：本日、洗濯機の正常動作を確認した。1 回の洗濯に使用する水の量は多いが、自衛隊の給水は当面ない。そのため今後、1 日何回洗濯の利用が可能か判断して、洗濯機の利用を予約制にする等のルール決めを、避難所責任者や物資担当者、県外行政職員と共に検討していく話し合いを行った。洗濯物を干す場所は、男女別に外から見えないようにテントを使用するなど、住民への配慮が見られる。女性用の洗濯干し場は体育館 2 階にあるが、物干し用のハンガーラックがなく、紐を使用して代替えしていたため、視察に来ていた外部支援の NPO 団体に事情を説明し、長い期間自治体から配布のない物資も含めて、搬入依頼の調整を行った（2 月 11 日頃に搬入予定）。

【被災者の健康】

- 現在、感染症が疑われる発熱者や体調不良者はいない。
- 義歯不良の住民（70 歳後半の女性）が 1 名おり、本日 JDAT による義歯調整が行われた。夕飯後、「こんなにすぐに直してもらえると思わなかった。明日から普通のごはんが食べられそうなので、嬉しいです。」といった語りがあった。本人は炊き出しを担当している娘さんに、既に、粥食から普通食に明日変更してもらうよう伝えていた。明日、朝食後に改めて反応を確認する。
- キッズスペース（Child Friend Space）で遊んでいた学童期の子どもが、右手第 4,5 指の間に 2mm 程度の裂傷あり。流水、石鹸洗浄し、絆創膏を貼用した。本人は啼泣もなく、その後も他の子どもたちと遊び、笑顔が見られている。本日、先発隊より事前情報のあった玩具をキッズスペースに置き、子どもと運動を伴う遊びを、住民や外部支援の NPO（子ども支援の経験があるスタッフ）と一緒にを行った（図 1）。3 人の子どもから始まり、最後は 5 人ほどがボールを投げたり、ビーズ遊びをしたり、それぞれが楽しみたい方法で過ごしていた。
- 明日 10 時より PWJ（ピースウィンズ・ジャパン）の巡回診療が予定されており、受診希望の方や薬切れの方は救護班に伝えてもらうように就寝前にアナウンスした。

【課題】

- 避難所運営メンバーの消防士より、「災害から 1 か月が経ち、住民が災害に慣れてきた様子がある。避難所運営スタッフで、災害が起きた時に、具体的にどう動くのか、避難や搬送方法、非常物品の持ち出しを話し合いしながら決めていきたい。」と再び地震が起きた際の、避難所の避難を住民が課題だという発言があった。避難所は早ければ 1 分で津波が来る場所にあり、救護班として、避難所運営メンバーと一緒に、集団避難計画や持ち出し物品の準備を早急に進めていくことが課題である。

【活動の様子】

図1. キッズスペースでの交流の様子

